

スーパーマーケット景気動向調査

2018年10月調査結果（9月実績）
（2018年10月23日公表）

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

【経営動向調査】

1. 経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について

- ・前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの5段階で評価
- ・前年同月を100とした当月の値を調査 ※2014年4月実績より

2. カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、

- ・前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの5段階で評価
- ・各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

経営動向調査DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+0.5・やや改善+0.25・変わらない±0・やや悪化-0.25・かなり悪化-0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「0」

【景況感調査】

1. 景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、

- ・2～3ヵ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで5段階で評価
- ・今後2～3ヵ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの5段階で評価

景況感DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+1.0・やや改善+0.75・変わらない+0.5・やや悪化+0.25・かなり悪化+0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「50」

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会

10月調査（9月実績）結果概況

景気判断DIは現状・見通しともに改善

9月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断DI 現状判断は前月から+1.1の48.7、見通し判断は前月から+2.2の47.3となり、どちらも前月から改善をみせた。

経営動向調査では、売上高DIが2016年11月以来のプラス圏となる0.7、収益DIは-1.8とどちらも前月から大幅な上昇をみせた。猛暑や天候不良による青果相場の高騰が続いており、生鮮仕入原価DIは+8.6と高水準を維持しているほか、台風接近前の駆け込み需要などで客単価DIは11.3と二桁のプラスまで上昇したことが追い風となった。一方来客数DIは、土・日が一回多い曜日巡りであったものの、悪天候の影響も受け-12.3と小幅な上昇にとどまった。

カテゴリ動向調査では、地震や台風接近による特需で非食品や一般食品カテゴリDIが上昇し、マイナス幅を大幅に縮小している。旬のサンマが好調な水産カテゴリDIも二桁の上昇をみせた。（カテゴリ動向については最終ページに詳細を掲載）

景況感調査では、前月こそやや悪化したものの、現状判断、見通し判断ともに小幅な改善が継続しており、引き続きトレンドは維持していると考えられる。（周辺地域景気動向DI 長期傾向参照）

9月は曜日巡りや台風接近前の買いだめ、タバコの駆け込み需要やサンマの豊漁などスーパーマーケットにとって追い風の多い月となった。一方で、景気判断DIは夏以降、これまでの悪材料出尽くしによる改善傾向が続いており、基調には明るさもみられている。今後しばらく、短期的な好不調要因への対応力を問われる状況が続くことになるだろう。

景況感調査

現状判断

景気判断DI 当月：48.7 (+1.1) 前月：47.6	消費者購買意欲DI 当月：48.9 (+1.7) 前月：47.2	周辺地域 競合状況DI 当月：44.0 (+1.4) 前月：42.6	店舗周辺地域 景気判断DI 当月：47.8 (-0.2) 前月：48.0
--	---	---	---

見通し判断

景気判断DI 当月：47.3 (+2.2) 前月：45.1	消費者購買意欲DI 当月：47.6 (+1.2) 前月：46.4	周辺地域 競合状況DI 当月：42.5 (+1.4) 前月：41.1	店舗周辺地域 景気判断DI 当月：47.4 (-0.2) 前月：47.6
--	---	---	---

経営動向調査 経営状況

売上高DI 当月：0.7 (+5.6) 前月：-4.9	客単価DI 当月：11.3 (+5.2) 前月：6.1	来客数DI 当月：-12.3 (+1.0) 前月：-13.3	
収益DI 当月：-1.8 (+6.3) 前月：-8.1	販売価格DI 当月：6.1 (+3.0) 前月：3.1	生鮮品仕入原価DI 当月：8.7 (-2.4) 前月：11.1	食品仕入原価DI 当月：4.4 (+1.4) 前月：3.0

カテゴリ動向

青果DI 当月：10.7 (-5.1) 前月：15.8	水産DI 当月：-1.8 (+10.4) 前月：-12.2	畜産DI 当月：-1.0 (+8.9) 前月：-9.9	
惣菜DI 当月：4.5 (+2.7) 前月：1.8	日配DI 当月：-1.8 (-0.5) 前月：-1.3	一般食品DI 当月：0.1 (+6.1) 前月：-6.0	非食品DI 当月：-4.6 (+9.3) 前月：-13.9

○ 内は前月DIとの増減、赤字はマイナス

10月調査（9月実績）結果詳細 I. 経営動向調査（2011年4月～）

1. 売上高DI

2016年11月以来のプラス圏回復

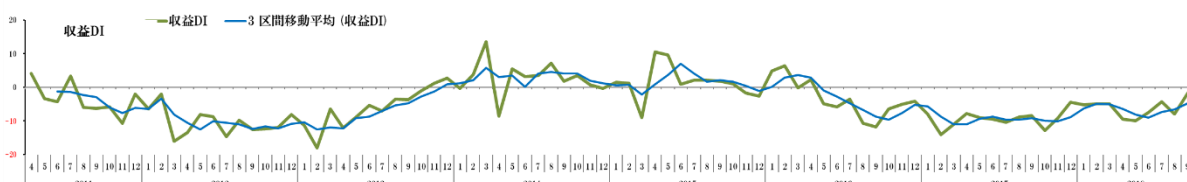
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
売上高（前月）	9.6	34.2	26.2	26.2	3.7	-4.9
売上高（当月）	8.1	27.0	27.0	29.7	8.1	0.7



2. 収益DI

当月大きく上昇しマイナス幅を縮小

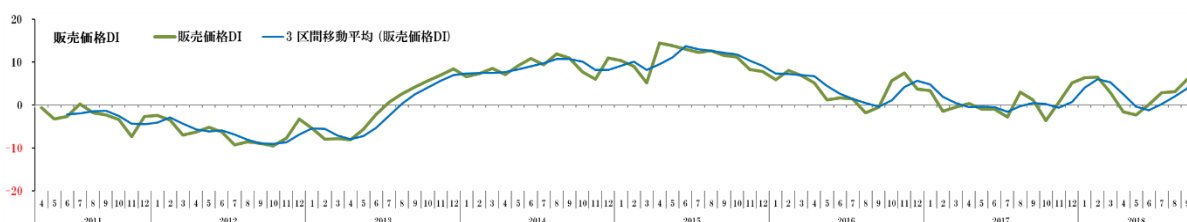
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
収益（前月）	12.0	34.4	29.0	23.0	1.6	-8.1
収益（当月）	6.0	33.0	29.1	25.8	6.0	-1.8



3. 販売価格DI

当月上昇しプラス幅を拡大

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
販売価格（前月）	0.0	11.2	66.3	21.4	1.1	3.1
販売価格（当月）	0.0	8.7	59.8	29.9	1.6	6.1



4. 客単価DI

二桁プラスまで上昇幅を拡大

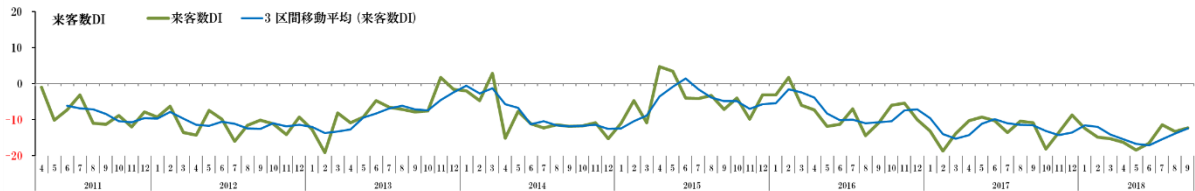
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
客単価（前月）	1.6	15.1	42.7	38.4	2.2	6.1
客単価（当月）	1.1	11.4	32.6	51.1	3.8	11.8



5. 来客数 DI

小幅に上昇も、二桁マイナス水準での推移が続く

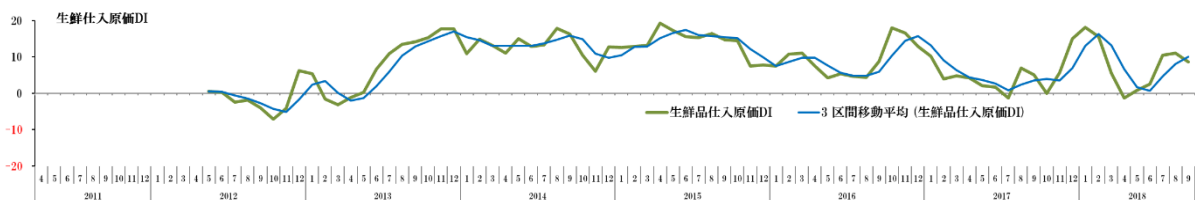
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
来客数 (前月)	10.8	46.8	28.5	12.9	1.1	-13.3
来客数 (当月)	10.4	45.9	29.5	10.9	3.3	-12.3



6. 生鮮仕入原価 DI

やや下落するも、高水準を維持

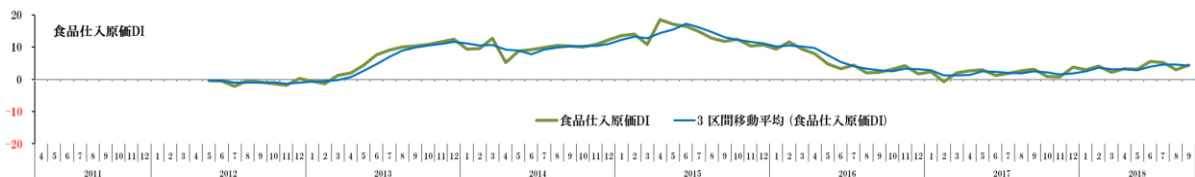
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
生鮮仕入原価 (前月)	1.1	7.7	41.5	45.4	4.4	11.1
生鮮仕入原価 (当月)	2.2	7.7	45.6	42.3	2.2	8.7



7. 食品仕入原価 DI

小幅に上昇し、プラス圏での推移

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
食品仕入原価 (前月)	2.2	9.8	63.4	23.0	1.6	3.0
食品仕入原価 (当月)	2.2	7.7	62.3	26.2	1.6	4.4

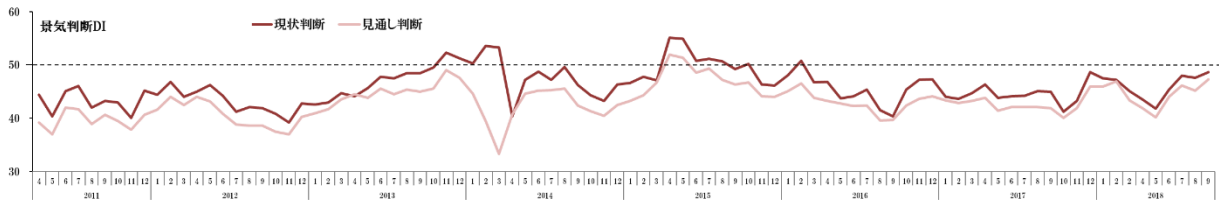


II. 景況感調査 (2011年4月～/周辺地域景気判断のみ 2010年4月～)

1. 中核店舗景気判断 DI

現状判断、見通し判断共に改善

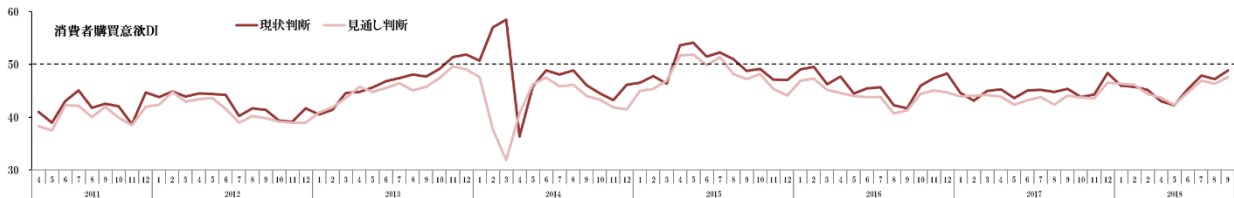
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】景気判断 (前月)	1.6	18.7	67.9	11.2	0.5	47.6
【現状】景気判断 (当月)	1.1	19.4	65.1	12.9	1.6	48.7
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】景気判断 (前月)	2.2	23.8	65.9	7.6	0.5	45.1
【見通し】景気判断 (当月)	1.1	21.0	66.7	10.2	1.1	47.3



2. 消費者購買意欲 DI

現状判断、見通し判断共に改善

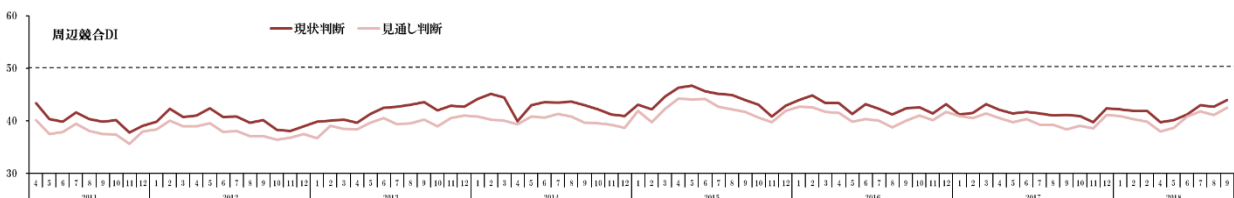
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】購買意欲 (前月)	1.1	16.6	74.9	7.5	0.0	47.2
【現状】購買意欲 (当月)	1.6	14.0	72.6	10.8	1.1	48.9
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】購買意欲 (前月)	0.5	17.8	77.3	4.3	0.0	46.4
【見通し】購買意欲 (当月)	0.5	15.6	76.9	7.0	0.0	47.6



3. 中核店舗周辺競合状況 DI

現状判断、見通し判断共に小幅な改善

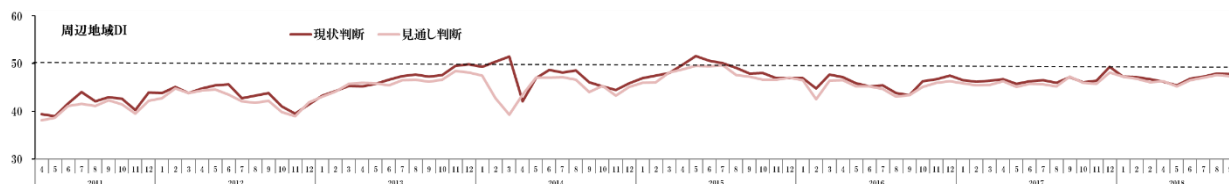
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】競合状況 (前月)	3.7	24.1	70.1	2.1	0.0	42.6
【現状】競合状況 (当月)	3.2	21.5	71.5	3.8	0.0	44.0
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】競合状況 (前月)	5.9	25.8	66.1	2.2	0.0	41.1
【見通し】競合状況 (当月)	5.4	23.1	67.7	3.8	0.0	42.5



4. 中核店舗周辺地域景気判断DI

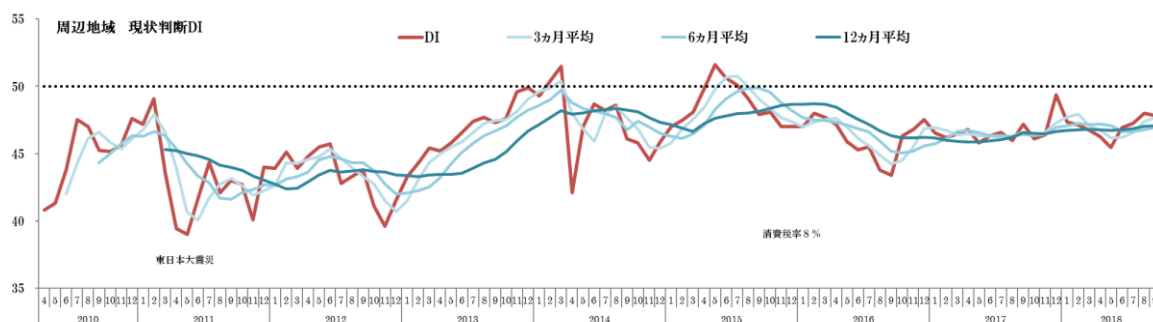
横ばいで推移し、高水準を維持

回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】地域景気 (前月)	0.0	11.8	84.9	2.7	0.5	48.0
【現状】地域景気 (当月)	0.0	10.9	87.0	2.2	0.0	47.8
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】地域景気 (前月)	0.0	12.4	85.4	1.6	0.5	47.6
【見通し】地域景気 (当月)	0.0	12.5	85.3	2.2	0.0	47.4



※長期傾向 (2010年4月～)

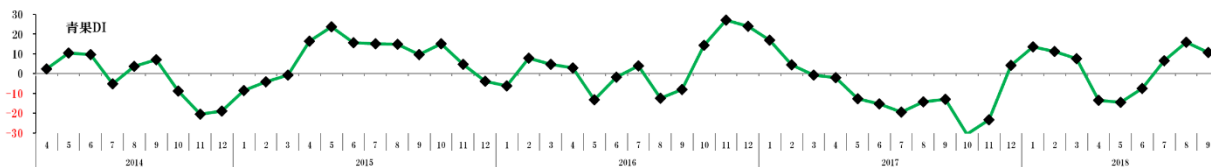
11年3月の東日本大震災後低迷を続けていたDIは、12年11月から16ヵ月にわたり改善が続き、14年3月には現状判断DIが51.5を記録した。14年4月の消費税率引き上げにより大きく悪化したものの、その後徐々に持直しをみせ、2015年5月には調査開始以来の最高値を更新し、現状判断DIは51.6にまで達した。しかしこれをピークとし、その後15ヵ月にわたり悪化傾向が続き16年9月には、現状判断DIは43.4まで低迷した。以降やや改善傾向が続いていたが、18年に入り悪化傾向が続き、5月には移動線付近を下回る水準まで低下したが、6月以降は改善傾向が続いている。



Ⅲ. カテゴリー別動向

1. 青果DI：10.7（好調）

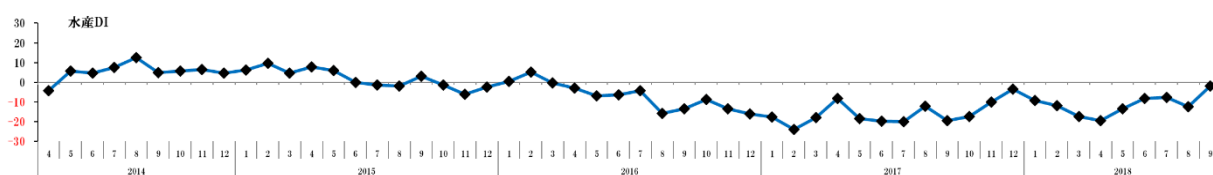
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
青果（前月）	3.3	13.9	16.7	48.3	17.8	15.8
青果（当月）	3.9	18.5	20.8	44.4	12.4	10.7



猛暑や少雨、台風被害などの影響で野菜相場が高騰し、一品単価が上昇した。北海道胆振東部地震により根菜類中心に価格上昇と品薄の影響を受けた。レタスやミニトマト、キュウリなどのサラダ商材やカット野菜は引き続き好調、サンマの好調により薬味用の大根も好調であったが、気温の低下した地域では鍋用野菜の動きもよかった。TV報道の影響でマイタケに特需がみられた店舗もあった。高値で推移している果物類も総じて好調となっており、なかでもブドウの動きがよかった。輸入果物ではバナナやキウイフルーツが引き続き好調となっている。

2. 水産DI：-1.8（やや不調）

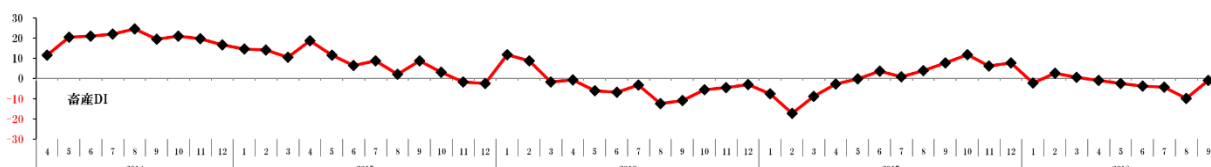
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
水産（前月）	16.7	34.4	33.9	11.1	3.9	-12.2
水産（当月）	7.3	31.6	28.2	26.6	6.2	-1.8



旬のさんまは、前年不漁・高値で不振となったが、今年は漁獲量が回復し、相場が低下したことで大幅に売上を伸ばした。同様に秋鮭やシラスなど前年に比べ漁獲量が回復しており好調となった店舗が多かった。一方で、まぐろやうなぎは相場高騰しており不調、塩干類の動きが悪いという指摘が多くみられた。刺身類は好不調がわかれている。

3. 畜産DI：-1.0（やや不調）

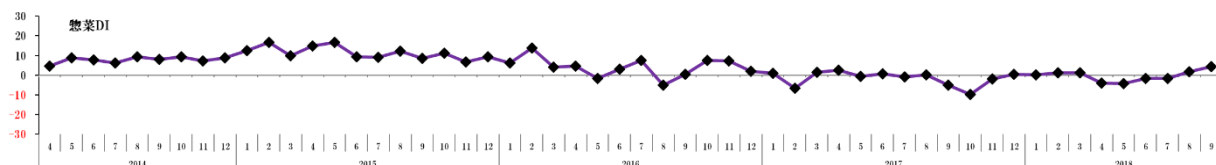
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
畜産（前月）	10.6	39.4	30.6	17.8	1.7	-9.9
畜産（当月）	5.1	28.7	35.4	27.0	3.9	-1.0



牛肉は相場高傾向が続くなか、土日が一回多い曜日回りも追い風にステーキ用などを中心に好調となった店舗も見られる一方で、伸び悩んだ店舗もみられた。豚肉は国産、輸入共に好不調の判断がわかれた。鶏肉は相場が下落傾向にあり単価下落により苦戦した店舗が多いが、サラダチキンや鍋需要により善戦した店舗もみられた。近隣店舗との価格競争を指摘するコメントがみられた。加工肉は引き続き不振とするコメントが多くみられた。

4. 惣菜DI：4.5（やや好調）

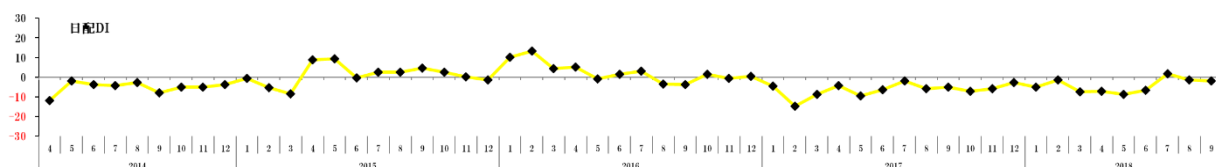
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
惣菜（前月）	7.9	19.8	36.2	29.4	6.8	1.8
惣菜（当月）	4.6	16.7	42.0	29.9	6.9	4.5



土日が一回多い曜日巡りの追い風を受け好調となったが、台風や悪天候による営業時間短縮や来客数減の影響を受けた店舗もみられた。ポテトサラダの食中毒報道からの反動増や青果相場の高騰によりサラダ関連が好調であった。寿司類や米飯類の動きがよかった一方で、揚げ物やてんぷらなどは伸び悩んだ店舗が多い。

5. 日配DI：-1.8（やや不調）

回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
日配（前月）	6.2	25.3	37.1	30.3	1.1	-1.3
日配（当月）	6.2	28.8	35.6	24.9	4.5	-1.8



地域による前年との気温差や体感気温に違いにより、アイス、飲料など涼味系とおでん商材などのホット商材の好不調判断がわかれている。和日配では健康報道により、納豆や梅干し、漬物（キムチ）の好調続いているほか、カニカマにも特需がみられて店舗があった。地震の影響により、牛乳をはじめとする乳製品の仕入れに影響を受け品薄となった地域もみられた。今年は十五夜が9月であったことで和菓子が好調となった。台風接近によりパン類で買いだめ需要がみられた地域があった。

6. 一般食品：0.1（やや好調）

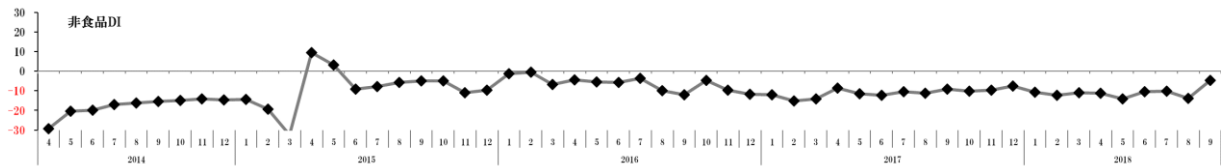
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
一般食品（前月）	6.1	34.6	36.9	21.8	0.6	-6.0
一般食品（当月）	5.1	25.7	38.9	24.0	6.3	0.1



日配カテゴリー同様に気候条件により、飲料などの夏物商材とホット商材などの秋物商材の好不調に地域差がみられた。台風接近前の買いだめ需要が発生した店舗がみられたほか、北海道では地震や停電により、水やレトルト食品、カップラーメンなど保存食品を中心に特需がみられた。一方で、品薄でチャンスロスがあった店舗もみられた。酒類は不調とするコメントが多い。単価の上昇している米類は引き続き好調となった。

7. 非食品DI：-4.6（やや不調）

回答構成比（%）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
非食品（前月）	17.3	30.1	43.9	8.1	0.6	-13.9
非食品（当月）	13.0	24.9	37.9	16.0	8.3	-4.6



地震や台風の影響で、防災関連として電池や懐中電灯、ガスボンベなどに特需が発生した地域があったほか、タバコには増税前の駆け込み需要がみられた。ホームセンターやドラッグストアなどとの競合の影響が大きく、売場を縮小する店舗もみられる状況は続いている。

カテゴリー別DIによる好不調判断

かなり好調：～20 好調：20～10 やや好調：10～0
 やや不調：0～-10 不調：-10～-20 かなり不調：-20～

2018年10月調査（9月実績）キーワードTOP3

1. 土日が一回多い
2. 青果相場高
3. 地震と台風の影響

スーパーマーケット景気動向調査 集計数

9月実績速報版 186社
 8月実績確報版 187社

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

スーパーマーケット統計事務局 tokei@super.or.jp